

12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (沖縄)	◎	百貨店（店舗企画）	・社会的にも新型コロナウイルス感染症に対し学習を重ね、うまく付き合う方向への転換がみえているため、徐々にではあるが、明るい兆しがうかがえる。
	◎	観光型ホテル（マーケティング担当）	・今月は半分以上の日程でホテル営業を休業していたので、今月と比べれば今後2～3か月先の客室稼働率は良くなっていくと考えられる。ただし、前年同月比で考えると、どの月も前年実績を下回る見込みである。まだまだ新型コロナウイルスによる影響は大きく、厳しい状況が続く。政府のG o T oキャンペーンの具体的な助成内容の決定、早急な開始を期待している。
	○	コンビニ（副店長）	・今月19日に移動自粛が解除され、前月よりも人の流れが良くなったとみられる。特に深夜の来店客数が若干だが戻ってきている。
	○	乗用車販売店（経理担当）	・国内観光客が少しずつ増えてきている。底は脱している。
	○	その他サービス [レンタカー]（営業）	・予約状況は、前年比でのマイナス幅が月を追うごとに改善傾向にある。ただ飽くまでも今の最低状態と比べてなので、厳しい状況には変わりはない。
	□	スーパー（企画担当）	・引き続き新型コロナウイルス禍により先行きが不透明である。
	□	コンビニ（経営者）	・観光客が増えてこない、来客数の減少で売上高が減少する。
	□	コンビニ（経営者）	・他府県への移動自粛の解除が行われるなかでも、首都圏での新型コロナウイルス感染者数は多く、来県者による新型コロナウイルス感染の恐怖感は払拭できない。自然と場所、時間帯により行動自粛を行う可能性が大きいため、店舗への来店頻度及び来店客の減少は否めないと考える。
	□	衣料品専門店（経営者）	・今月は、前半から中盤に掛けてまだまだ自粛モードがあって客が少ない状態であったが、後半に掛けては客の出も良くなった感がある。しかしまだ購買にはつながっている感じはしない。景気としてはまだまだ良くなる感じがしない。これからどうなるか、予断を許さない状態である。
	□	衣料品専門店（経営者）	・分からないため、変わらないと答えている。新型コロナウイルス感染の拡大か、終息か、先の読めない状況は変わらない。
	□	観光型ホテル（代表取締役）	・先々の予約もまだ増えていない。現在の状況とほぼ変わらない。
	□	旅行代理店（マネージャー）	・新型コロナウイルスが終息しないとどうしようもない。
	□	通信会社（営業担当）	・今月は5月までの反動でやや良くなったが、今後しばらくは新型コロナウイルスへの警戒のため大きな回復はみられないのではないかとみている。
	□	住宅販売会社（代表取締役）	・新型コロナウイルスの影響で収入が落ち込んでいる客も多いと考えられ、当面建築意欲は弱含みで推移するとみられる。
	▲	スーパー（販売企画）	・新型コロナウイルス禍による社会経済の厳しい状況は、将来の景気を悪くすることは否めない。
	▲	通信会社（サービス担当）	・新型コロナウイルスの影響がまだあり、来客が少ない。
	×	商店街（代表者）	・現状では新型コロナウイルスがまん延ではなくとも、ワクチンができ上がっていないので、県民も危惧している。ワクチンができれば対応が変わってくるのではないかとみている。現在は飲食店等の店舗が大変な状況に陥っているので、景気の回復はまだ難しいとみている。
	×	その他飲食 [居酒屋]（経営者）	・飲食客の新型コロナウイルスに対する意識が薄れているのと旅行者の増加で、感染者の増加が懸念される。第2波、第3波が来て、また外出自粛となると耐え忍んで営業を続けられるだけの資金を準備できない。今回で緊急融資、対象補助金を使い果たしている。
	×	観光名所（職員）	・新型コロナウイルス感染症の第2波、第3波を心配している状況である。
	企業	◎	—

動向 関連 (沖縄)	○	食料品製造業（総務）	・新型コロナウイルスの感染が拡大しなければ安心感が広がり、経済活動に活気が出てくる。
	□	窯業・土石製品製造業（経営者）	・今後も現状と変わらない見通しである。
	□	建設業（経営者）	・住宅の相談に客が来ても、新型コロナウイルスの先がみえないからということで一向に前に進まない。
	▲	輸送業（代表者）	・宮古島、石垣島の建設関連は、官需部門においては依然好調に推移する見込みだが、民需では一部のホテルやアパート等で落ちている。
	▲	輸送業（経営企画室）	・自粛が全面解除されたことにより観光客も増えてきているとみられる。一方で前年比では引き続き悪い状況であるとみられる。
	▲	広告代理店（営業担当）	・県内企業は、基幹産業の観光市場が回復して県内景気が上昇していくことを期待しているものの、新型コロナウイルス発生以前の活況が戻ってくることは難しいとの認識もあり、引き続き販促活動は縮小均衡のままだとみられる。
	×	会計事務所（所長）	・緊急事態から平常へ戻りつつあるが、自力のみでは業績回復は難しい。支援制度が更に必要である。
雇用 関連 (沖縄)	◎	—	—
	○	求人情報誌製作会社（営業担当）	・県をまたぐ移動の自粛が解除されて、観光客が増える。
	○	求人情報誌製作会社（編集室）	・6月は求人件数の前年同月比減少幅が4～5月より大分良くなっている。特に居酒屋等は、新型コロナウイルスの影響を余り受けていなかった2月の求人は週平均30～40件あったのが、4月は数件まで減少していた。6月は20件前後まで回復している。
	○	職業安定所（職員）	・観光関連業種も含め幅広い業種で新規求人募集が出始めている。
	□	学校〔大学〕（就職支援担当）	・新型コロナウイルスの終息がみえないため、不安が広がっている。
	▲	学校〔専門学校〕（就職担当）	・緊急事態宣言は解除されたが、社会活動は明らかに変化しており前年と比較することはできない。この先も予断を許さない状況が続くと懸念される。ワクチン開発や予防策が完成しない限り終息とはいえない。不安は増す一方である。
	×	—	—